

「老いのエンドロール～社会へ、人々へ、この想いを届けたい」

清泉女学院大学 看護学部教員 大澤智恵子

昨年クリスマスに1冊の本が誕生しました。

「老いのエンドロール」

お年寄りからいただいた「いのちの物語」が、やっと形になりました。

実は、ずっと書きためてきたお年寄りの生きた姿を本にしたいと、国際医療福祉大学大学院の医療福祉ジャーナリズムの修士課程に進み、ゆきさん（大熊由紀子教授）のご指導のもと書いたものです。ですが、現実的に本にすることは難しく、データはずっとパソコンの中に眠っていました。

私は、この3月に今の仕事を辞めて新しい事業を始めます。そのため、ずっと続けてきた医療・福祉の仕事の一区切りとして本を出すことを決心しました。

でも、通常の自費出版は経済的に無理でした。

そこで、自分の本を出版していた友人が紹介してくれた方が、新夕真悠（あらたまゆ）さんでした。

まゆさんは、もともと介護の仕事をしてきた福祉畑の方です。福祉や医療の仲間の中に、社会に伝えたい熱い想いを持っている人が大勢いることを知っていました。

文章を書くことが好きだったまゆさんは「その方の想いを、本という形にして社会へ届けたい！」と、介護の仕事辞めて、出版のための総合的なプロデュースを始めたのです。

私の本は、すでに修士論文で書いていましたので、ほぼ文章は出来上がっていました。

そのため「編集は大変ではないから」と、本当に格安で請け負っていただき、3ヶ月で本はできました。

この本は、書店ではなく、アマゾンで購入しないと読めません。

Kindleで電子書籍か？紙媒体のどちらかの選択で購入できます。

この形式だと、通常の自費出版のように何冊も自分で購入して抱える必要がありませんので、自分の想いを、広く社会へ、多くの方に届けたいという方にとっては、とても有難い出版の方法だと思います。

